

資料編

1. 越前町都市計画基本方針等策定委員会設置要綱

(設置)

第1条 都市計画法（昭和43年法律第100号）第18条の2第1項の規定による本町の都市計画に関する基本的な方針（以下「都市計画マスタープラン」という。）及び、都市再生特別措置法（平成14年法律第22号）第81条第1項の規定による立地適正化計画（以下「立地適正化計画」という。）を策定するに当たり、越前町都市計画基本方針等策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会の所掌事務は次のとおりとする。

- (1) 都市計画マスタープランの策定に関すること。
- (2) 立地適正化計画の策定に関すること。
- (3) その他必要な事項

(組織)

第3条 委員会は、委員20人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから町長が委嘱する。

- (1) 学識経験を有する者
- (2) 越前町議会議員
- (3) 各地区区長会長
- (4) 農業関係団体
- (5) 商工業及び観光業関係団体
- (6) 福祉関係団体
- (7) 住民
- (8) 福井県都市計画課職員
- (9) 福井県丹南土木事務所鯖江丹生土木部職員

(任期)

第4条 委員の任期は、町長が委嘱した日から第2条各号に掲げる事務が終了するまでとする。

2 任期中において交代した委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長各1人を置く。

- 2 委員長は、委員の互選により選出する。
- 3 副委員長は、委員のうちから委員長が指名する。
- 4 委員長及び副委員長の任期は、委員の任期とする。
- 5 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。
- 6 副委員長は、委員長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 会議は、委員長が招集する。

- 2 会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。
- 3 委員長は、会議の議長となり議事を整理する。
- 4 会議の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(事務局)

第7条 委員会の事務局は、定住促進課に置く。

(その他)

第8条 この告示に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、町長が定める。

附 則

この告示は、平成27年8月1日から施行する。

2. 越前町都市計画基本方針等策定委員名簿

整理番号	区分	氏名	所属	摘要
1	学識経験者	武井 幸久	福井工業高等専門学校 環境都市工学科教授	委員長
2	学識経験者	野嶋 慎一	福井大学工学部 建築建設工学科教授	副委員長
3	議会代表	吉村 春男	越前町議会議員	
4	議会代表	田中 太左エ門	越前町議会議員	
5	区長会	坪川 和夫 (平成27年9月10日～ 平成28年3月27日) 孝久 幸一 (平成28年3月28日～)	朝日地区区長会長	
6	区長会	武藤 吉明	宮崎地区区長会長	
7	区長会	高橋 政嘉	越前地区区長会長	
8	区長会	佐々木 勝行	織田地区区長会長	
9	各種団体	青山 武男	越前町農業委員会会長	
10	各種団体	島田 雅子	教育委員長推薦	
11	各種団体	森下 定信	越前町商工会会長推薦	
12	各種団体	藤原 綱藏	越前町観光連盟会長推薦	
13	各種団体	佐々木 悠人	越前町社会福祉協議会会長推薦	
14	住民代表	丹羽 利江	朝日地区住民代表	
15	住民代表	田中 美穂	宮崎地区住民代表	
16	住民代表	豊浦 愛	越前地区住民代表	
17	住民代表	林 有紀	織田地区住民代表	
18	関係行政機関	深水 正康	福井県土木部都市計画課主任	オブザーバー
19	関係行政機関	久保 俊章 (平成27年9月10日～ 平成28年3月31日) 夏梅 晃一 (平成28年4月1日～)	福井県丹南土木事務所 鯖江丹生土木部長	オブザーバー

3. 策定経緯の概要

名 称	年月日	主な協議事項等
第1回 越前町都市計画 基本方針等策定委員会	平成27年9月10日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会の役割 ・策定スケジュール ・都市計画マスタープラン全体構想
第2回 越前町都市計画 基本方針等策定委員会	平成27年12月9日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・都市づくりの理念 ・将来フレーム ・地区別まちづくり方針
第3回 越前町都市計画 基本方針等策定委員会	平成28年3月28日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・越前町における立地適正化計画の考え方
第4回 越前町都市計画 基本方針等策定委員会	平成28年5月31日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・立地適正化計画 誘導区域の設定方針
第5回 越前町都市計画 基本方針等策定委員会	平成28年8月31日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・地区別の誘導区域の設定方針
第6回 越前町都市計画 基本方針等策定委員会	平成29年2月20日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・都市計画マスタープラン 及び立地適正化計画 全般

パブリックコメント	平成29年3月1日(水) ～3月14日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・都市計画マスタープラン ・立地適正化計画
-----------	---------------------------	--

4. 住民ワークショップ

本計画の策定に際し、住民の皆さんの意見を計画に反映するため、地区毎に住民ワークショップを開催しました。

ワークショップでは、各地区のまちの現状を再確認したうえで、地区の問題・課題、めざすべきまちの姿や実現に向けた行政と住民の協働の姿についてまとめました。

また、このワークショップは、今後のまちづくりについて、住民と行政が共有することを目的として実施しました。

■開催スケジュール

日 程	内 容	備 考
平成 26 年 11 月 13 日 (木)	第 1 回朝日地区住民ワークショップ	
平成 26 年 11 月 18 日 (火)	第 1 回宮崎地区住民ワークショップ	
平成 26 年 11 月 19 日 (水)	第 1 回織田地区住民ワークショップ	
平成 26 年 11 月 29 日 (土)	先進地視察 (福井県高浜町)	
平成 27 年 2 月 25 日 (水)	第 2 回朝日地区住民ワークショップ	
平成 27 年 2 月 27 日 (金)	第 2 回宮崎地区住民ワークショップ	
平成 27 年 3 月 2 日 (月)	第 2 回織田地区住民ワークショップ	
平成 27 年 3 月 4 日 (水)	第 1 回越前地区住民ワークショップ	
平成 27 年 10 月 27 日 (火)	第 2 回越前地区住民ワークショップ	
平成 27 年 10 月 28 日 (水)	第 3 回宮崎地区住民ワークショップ	
平成 27 年 11 月 4 日 (水)	第 3 回織田地区住民ワークショップ	
平成 27 年 11 月 5 日 (木)	第 3 回朝日地区住民ワークショップ	
平成 27 年 11 月 16 日 (月)	第 4 回朝日地区住民ワークショップ	
平成 27 年 11 月 17 日 (火)	第 3 回越前地区住民ワークショップ	
平成 27 年 11 月 19 日 (木)	第 4 回宮崎地区住民ワークショップ	
平成 27 年 11 月 25 日 (水)	第 4 回織田地区住民ワークショップ	

【朝日地区】

■朝日地区 グループワーク①

Aグループ

『住み続けられる環境、地域を維持・継続していく環境づくり』に向けて (朝日地区)

	よくなったところ	わるくなったところ
住む	<ul style="list-style-type: none"> ・上糸生までは、道路が整備され冬期間でも安心して走れる(車両) ・道路が整備され、移動時間が短縮された ・道路幅が広くなり、車での移動がしやすくなった ・コンビニが増えた ・LED街灯であかるくなった ・下水道が整備された 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝日地区でも糸生地区(特に奥糸生)では、若者が住まない 道路が建設されない ・朝日別所線の整備が遅れている 早急に整備を!! ・朝日地区に入るアクセスが悪い ・周辺市とのアクセスが悪い ・狭い道路(住宅地)の交通量が多い ・高齢者の買物先が近くにない ・公共交通機関(バス)の本数が激減した ・商店が少なくなっている ・バイパス整備で、旧通りが閑散としている ・空地が目立つ 活気を感じない 西田中(中心地)
働く	<ul style="list-style-type: none"> ・町外へ勤めるのに必要な道路整備が進んだ 	<ul style="list-style-type: none"> ・働く場所が次々となくなり、若者の住む気持ちに影響している ・地元の勤め先が激減している ・高速道路とのアクセスが悪い
学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校廃校の後に、生涯学習センター糸生分館となった。施設の性格が人の交流につながっている。 ・中学校が合併し、立派になった ・ホッケー会場の整備でよくなった 	<ul style="list-style-type: none"> ・糸生地区では、中学校が廃校になり、やがては小学校もと危機感を感じている ・ハード面だけでなく、ソフト対策をする ・丹生高校を平地につくってほしい 利便性が悪い
遊ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・野球場、ホッケー場などが整備された ・緑地公園が増えた 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の公園等の利用者が少ない ・商店街に駐車場がない ・海岸沿いと朝日地区とで観光面においてに予算の配分が違い過ぎている ・歴史・文化的要素があるのに生かされていない ・老人にやさしくない道が多い(歩道など)

『住み続けられる環境、地域を維持・継続していく環境づくり』に向けて (朝日地区)

目指すべきまちの姿

<キーワード>

住む 環境

交流 高齢者

- ・ 便利なベッドタウン
- ・ 自然から学べる環境の強化
- ・ 小イベントを活用した交流人口の増加
- ・ 交流人口をターゲットとした販売促進
- ・ 高齢者の生きがいの醸成

	まち（行政）に望むこと	自分たちにできること
住む	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大型娯楽施設 →ショッピングセンター 遊べる施設、レストラン ・ 複合施設の誘致 ・ 総合病院の誘致 ・ 若者が住みたい町 →仕事 - 隣接市とのアクセス（道路をつくる） （別所朝日線） →大型スーパー：バス巡回、移動販売 	<ul style="list-style-type: none"> ○まず、住民がアクションを起こす →行政頼りはダメ ・ 住環境のPR活動
働く		<ul style="list-style-type: none"> ・ 交流人口を増やす ～イベントの立ち上げ 地域住民ができる範囲で エコキャンドル ・ 町内来訪者をターゲットとした販売の積極化 ・ 特産品の開発、PR ・ 木の実、薬草を活用した誘客
学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文化レベルの向上 地区の環境を活用 	
遊ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地元住民がアクションを起こせる環境づくり （町が予算化） ・ 高齢者が集える場の確保 ・ 空き家を地元住民の憩いの場とする ・ 地区外から「泊り」のできる場として活用 ・ 人気観光スポットへのアクセス向上 ・ 観光的要素をもっと浮上させる ～越知山、神社・仏閣、歴史的場所（古墳等） ・ 景勝地等PRの積極化による交流人口の拡大 （若者） ・ 温泉掘削 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の活気向上イベントの開催

『住み続けられる環境、地域を維持・継続していく環境づくり』に向けて (朝日地区)

	よくなったところ	わるくなったところ
住む	<ul style="list-style-type: none"> ・住むための土地は多い ・他地区より土地が安い ・空気、水が良い 静か ・他の市町へのアクセスが良い (他地区より) ・宅地を安く提供し、近隣の市町の方に住んで頂く 	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家が増えてきている ・一人暮らしの方が増えた ・世帯分離などにより、新しい住宅団地でも高齢化している
働く		<ul style="list-style-type: none"> ・町内の働く場所が少ない ・商店街がさみしい ・新しい企業をつくる
学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・大勢で学べる (中学校) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校が遠くなり、バス通学を余儀なくされている
遊ぶ		<ul style="list-style-type: none"> ・男女の出会いの場が少ない ・高齢者のレジャー参加人数の減少

『住み続けられる環境、地域を維持・継続していく環境づくり』に向けて (朝日地区)

目指すべきまちの姿

<キーワード>

- 安心、安全、にぎわい
- 買物、住、集
- 老、若、子
- ・何でメシを食うかの方針
- ・どうやって住むか



- ・集約したまちづくり
- ・お年寄りも子供も安心して集まるようなまちづくり (集積)
- ・コミュニティのあるまちづくり
- ・「オンリーワン」のまちづくり
- ・自然歴史文化を生かしたまちづくり
- ・災害に強いまちづくり
- ・若い世代の定住、若者が集まり、若者中心のまちづくり
- ・シニアタウンも検討

	まち（行政）に望むこと	自分たちにできること
住 む	<ul style="list-style-type: none"> ・基幹産業、ハード整備、モデル団地整備 ・丹生高校周辺に団地造成 ・西田中に集約 ・宅地の供給 ・人が集まれば、店ができ、にぎわう 	<ul style="list-style-type: none"> ・行政でカバーできないこと ・若い人のまちづくりへの関心を高める ・自治体でできないことは、コミュニティ運営委員会で実施する
働 く	<ul style="list-style-type: none"> ・職場とのアクセスをよくする (町外でもいい) 	
学 ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・丹生高校の存続、そのための計画 ・丹生高校の立地条件 (下に降ろす) 	
遊 ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・自然で遊ぶもの以外は、町外でOK 	

【織田地区】

■織田地区 グループワーク①

Aグループ

『住み続けられる環境、地域を維持・継続していく環境づくり』に向けて (織田地区)

	よくなったところ	わるくなったところ
住 む	<ul style="list-style-type: none"> ・夜遅くまで営業している店が増えた ・道路が広くなって、通勤など便利になった ・コミュニティバスを利用できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・神社前の街並みが変わらない ・神社～信長像の間 店がさみしい 閉まっている店が多い ・織田と宮崎の間 標識などが少なく分かりにくい 互いに行き来できるように ・公共交通機関が少なくなった
働 く	<ul style="list-style-type: none"> ・通勤が苦にならない 	<ul style="list-style-type: none"> ・大きい工場等がなくなり、女性の職場が失われた
学 ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・学校が整備された 	<ul style="list-style-type: none"> ・高校通学に親が送迎するようになった
遊 ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・悠久ロマンの杜がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光施設と市街地との関連がない ・飲食店が減った

『住み続けられる環境、地域を維持・継続していく環境づくり』に向けて (織田地区)

目指すべきまちの姿

<キーワード>

劔神社 門前町
若者の住みやすい街
歴史を感じる町

劔神社を中心とした歴史を感じる
こぢんまりとした街並みに
若者が充実した生活を送れるまち

	まち（行政）に望むこと	自分たちにできること
住 む	<ul style="list-style-type: none"> ・困ったことを徹底的に解決していく行政であってほしい（たとえば、通学バス） ・住みやすさ 税金、区費が安い ・信長像の移転を含め神社を中心とする街並みの整備 ・公共施設の統合 	<ul style="list-style-type: none"> ・地区内のボランティア活動の充実
働 く	<ul style="list-style-type: none"> ・農林業の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ・人が集まる店をつくる
学 ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・織田を好きなひとづくり ・保育料の無償化 	<ul style="list-style-type: none"> ・太鼓のまちとして、年間を通していつでも太鼓を感じられるまちづくり、人づくり ・文化歴史館の活用 ・地域の宝をもう一度見直す
遊 ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・劔神社の通りをつくる（舗装） ・織田の良いところをPR（じんべい、とうふ、生ドラ） ・まつりごとに対して町の予算を増やしてほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション事業への参加を増やす ・安い居酒屋があるといいなあ

『住み続けられる環境、地域を維持・継続していく環境づくり』に向けて (織田地区)

	よくなったところ	わるくなったところ
住 む	<ul style="list-style-type: none"> ・ 停留所が整備されて、銅像も象徴されてよい ・ ショッピングセンター通りが発展してきた ・ いなかなので住みやすい 静かな環境 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 神社の参道の商店が閉店している ・ 食料品の買物が近くでできない ・ 中心地がなくなった (駅舎) ・ 街中の道路が狭い ・ 空き家が多くなった ・ 外灯が少ないので町全体が暗い ・ 子供や若者が少なくなり、町が活性化していない
働 く		<ul style="list-style-type: none"> ・ 職場、企業が少なくなり、住民が町外へ働きに出ている
学 ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・ クラブ活動は、施設の充実でしやすくなった コミュニティセンター ・ 通学路の歩道の整備が充実してきた (萩野小) 	
遊 ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 嫁の活動 (趣味) に対して、姑が協力的になっている ・ 老人会などの活動が活発 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既設の施設の活用がない 補修もなし (例えば、いこいの森) ・ 劔神社周辺の活性化なし (受け入れ体制がない、観光客用) ・ いこいの森の利用が減っている ・ みんなが集う公園がない、散らばっている ・ 大きい公園がない

『住み続けられる環境、地域を維持・継続していく環境づくり』に向けて (織田地区)

目指すべきまちの姿

<キーワード>

劔神社 リーダー
観光 人が集まる

今の住みやすさを残す
織田の自然や歴史、景観（風土、風景）を活かす

	まち（行政）に望むこと	自分たちにできること
住 む	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急車両の駐車場の確保 ・冬場の融雪設備の改良 (雪が融けにくい。道幅が狭くなる) ・道が狭い、歩道が必要 ・家並みの保存 ・公園の整備（交流の場） 	
働 く	<ul style="list-style-type: none"> ・若い女性が働く場所をつくる 	
学 ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・まちの文化を学校で教える 	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりのリーダーの育成
遊 ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・婚活 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光ボランティア

【宮崎地区】

■宮崎地区 グループワーク①

Aグループ

『住み続けられる環境、地域を維持・継続していく環境づくり』に向けて (宮崎地区)

	よくなったところ	わるくなったところ
住む	<ul style="list-style-type: none"> ・江波に若い人が増えた ・統一されたまちなみが良かったのに→ ・道路がよくなった ・コンビニが出来た ・ゴミ分別が楽 粗大ゴミ回収が多くて助かっている <p>⇒便利になった</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ガソリンスタンドが古びてきた ・家を建てるための下水整備にお金がかかり、町外で家を買う(工事 5万円/m)(宮崎に住まなくなる) ・結婚できない男子が多い(ゴーストタウン化する) ・近所つきあい 希薄 ・空き家が増えた ・道路等 荒れた感じ、草はえっぱなし ・結婚しても地区内に住まない ・農地が荒廃してきた(けもの) ・欄干にイネを干す人がある ・除雪対応が悪くなった(役場の人がやらなくなってから) ・堤防が高くなったので、雪が捨てにくくなった <p>⇒昔ながらのつき合いができなくなってきた</p> <p>⇒あと取り問題</p> <p>⇒インフラの老朽化</p>
働く	<ul style="list-style-type: none"> ・村田が忙しそう <p>⇒村田製作所は良い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・若い人の働く場がない ・パート先がない <p>⇒働く場がない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・越前市との道路のつながりが悪い <p>⇒近隣市とのアクセスが悪い</p>
学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館ができて学べる場ができた ・図書館が利用しやすくなった ・学校の環境がよい、学ぶ場として適している ・給食でカニが食べられる <p>⇒図書館、コミセンができ、学ぶ環境が整備された</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの数が減り、切磋琢磨の機会が減ってきている ・給食センターが古い ・学校の自然公園が活用できていない <p>⇒子どもの数が減り、周囲のインフラの老朽化が進む</p>
遊ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・樫津公園が整備され、子どもたちがよく遊んでいる ・イベントが多くなった <p>⇒町のイベントが多い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・陶芸村に活気がない ・陶芸村がさびれた感→観光客の減少 <p>⇒陶芸村の進むべき道すじ見えない?</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清掃 ・周囲施設の利用 ・バスの数が減少 <p>⇒イベントが多いが身近ではない</p> <p>役員の負担は大きい</p>

『住み続けられる環境、地域を維持・継続していく環境づくり』に向けて (宮崎地区)

目指すべきまちの姿

<キーワード>

- ・現状のままで
のどかさ 自然
- ・人口減少にならない工夫
- ・若い人の定着
- ・小中学校の維持



- ・手厚い子育て支援施策を
- ・専門知識をもった人など学習機会を増やす
- ・近所付き合いができるような施設及び集う
- ・就業先の支援、確保
- ・伝統的民家 文化を活かしたまちづくり
- ・交流人口の増加

	まち（行政）に望むこと	自分たちにできること
住む	<ul style="list-style-type: none"> ・国道の花壇の廃止 ・家を建てる際に、下水、水道の補助を ・鳥獣害対策 特にサルがひどいらしい ・子育て支援 医療費、保育料等 ・伝統的民家をあまり大きく宣伝しない ・空き家等利用 県外から移住者を募る ・遊歩道の緑のシートがとれ、見にくい (コンクリートが丸見え) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の代で終わらせることなく 次の世代にも地区内に住んでもらう ・集落内行事（ボランティア、まつり等）に 積極的に参加する ・空き家、空き倉庫などを陶芸家などに貸し出す
働く	<ul style="list-style-type: none"> ・町主体のハローワーク支援をしてほしい 仕事を紹介する 	<ul style="list-style-type: none"> ・農地を荒らさない ・山林を守る ・近所で草むしり、庭いじり等を行う
学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の小中学校学区を守る ・自然公園（小学校内）をいのしし等鳥獣害から 守る 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門知識を持っている人（マニア、お宅）が 勉強会を行う ・不要になった本、カセット（英会話）などを提 供する
遊ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・町でバスツアーを企画して欲しい（会費制） ・喫茶須恵を再開してほしい ・岐阜県からの道を広げる 海岸に出られれば人が来る ・おもいでなを道の駅のような規模にする ・県外での宣伝力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ趣味を持つ人が集まって遊んだり、情報交 換する ・壮年会活動を活発にする ・シビエ料理の普及 ・陶芸村に飲食店をつくる ブランチが食べられるように ・みやざきの特産品をつくる (食べ物、おいしい酒)

『住み続けられる環境、地域を維持・継続していく環境づくり』に向けて (宮崎地区)

	よくなったところ	わるくなったところ
住 む	<ul style="list-style-type: none"> ・幹線道路が整備された ・都市計画道路ができて宅地造成が盛んになった ・幹線沿いの宅地は入居が進んだ 	<ul style="list-style-type: none"> ・一本杉の所に融雪装置がまだない ・花壇が広すぎるため、管理できずに草が生え、景観が悪い ・ガソリンスタンドがなくなる心配がある ・道路沿いの樹木により暗く、イメージが悪い ・若者が定着しない ・人口が減った
働 く		<ul style="list-style-type: none"> ・職場が無い
学 ぶ		
遊 ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・公園に遊具ができ、にぎやかになった 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊ぶところが少ない

『住み続けられる環境、地域を維持・継続していく環境づくり』に向けて (宮崎地区)

目指すべきまちの姿

<キーワード>

楽しむ 交流
仲の良いまち

・ 仲の良い隣同士の付き合いのあるまち

	まち（行政）に望むこと	自分たちにできること
住 む	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交通 ・ 陶芸を生業にしたい人に住む場所（空き家等）を紹介する ・ 陶芸家が集合できる団地開発 ・ 焼き物屋団地の分譲（窯を設置できる場所） ・ 基幹道路の冬期間での安全面確保（消雪等） ・ 歩きやすい歩道（冬期、雪ですべる、危険） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外から移住して来た人たちとの交流を多くする
働 く	<ul style="list-style-type: none"> ・ 焼き物屋を誘致 ・ 農業・林業での生活基盤の確保支援（収入） 	
学 ぶ		<ul style="list-style-type: none"> ・ カルチャースクール（伝統文化、趣味等）
遊 ぶ		<ul style="list-style-type: none"> ・ 地区の青年会等の集まりで楽しめる ・ 居酒屋（皆が集まれるところ） ・ 消防団に入る、遊ぶ

【越前地区】

■グループワーク①

『住み続けられる環境、地域を維持・継続していく環境づくり』に向けて（越前地区）

	よくなったところ	わるくなったところ
住 む	<ul style="list-style-type: none"> ・道路は良くなった⇒通勤は便利になった ただ、住民にとっては 便利さの実感は低い ・埋め立てで駐車場を確保できた (路上駐車が減った) 	<ul style="list-style-type: none"> ・地区外への人口流出 ⇒人口減少、高齢化が加速、空き家の増加 ・住民の地区への関心、住民のコミュニティが 低下 ⇒「役」をする人が限られ、負担大きい ・密集した集落：火災の危険（空き家多い） ・昔：地区内で生活が完結 今：通勤、通学、病院、買い物等多くを 地区外に依存
働 く		<ul style="list-style-type: none"> ・働く場が減った ⇒地区外への通勤の増加 (地区外転居の呼び水となった) ・海水浴客の減少 ⇒民宿が減少 ・水仙の担い手不足 ・水産業の働き手が不足 ⇒外国人労働者（低賃金、空き家提供）
学 ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・通学路：トンネルができ、波をかぶることが なくなった 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童、生徒の減少 ・鯖江市、越前市への高校通学の負担大きい (交通費、送迎)
遊 ぶ		

■越前地区 グループワーク②

『住み続けられる環境、地域を維持・継続していく環境づくり』に向けて (越前地区)

目指すべきまちの姿

<キーワード>

住民：必要な便利とは
生活できる環境
負担の軽減・解消

住むことに誇りをもてる心豊かなまち

	まち（行政）に望むこと	自分たちにできること
住 む	<p><高齢者の増加></p> <p>○住みやすさ：身近なところで病院、買い物</p> <p>・外出や移動が不便な高齢者への生活サービス支援</p>	<p>○若い世代の定着</p> <p>⇒地区の活動への参加を容易にする (あれこれ押し付けない、みんなで分担して各々の負担を軽減する)</p>
働 く	<p>・冬期の通勤路の確保（消融雪）</p> <p>○働く場の提供</p> <p>・住むのは地区外でも通勤できる環境</p> <p>・情報発信、PR</p>	<p>○観光：地域資源の活用</p> <p>⇒特別なものがなくても、あるものを活かしたサービスの提供（マリンレジャー、釣り等）</p>
学 ぶ	<p>・町外への通学に対する交通費の助成</p>	
遊 ぶ		

5. 庁内ワークショップ

本計画では、庁内の若手職員を対象として、まちづくりに向けたワークショップを実施しました。

ワークショップでは、本町を構成する4地区別に地区の現状を確認したうえで、めざすべきまちの実現に向けて実施すべきことをまとめました。

■開催スケジュール

日 程	内 容	備 考
平成26年10月31日(金)	庁内ワークショップ	



『住み続けられる環境、地域を維持・継続していく環境づくり』に向けて

	よくなったところ					わるくなったところ				
地区	全体	朝日	織田	宮崎	越前	全体	朝日	織田	宮崎	越前
住む	<p>道路の整備 バイパス等</p> <p>道路が整備され車での移動がしやすくなった</p>	<p>国道沿いにお店が増えてきた</p> <p>天王川が整備され、安心して住めるようになった</p>		<p>コンビニができた</p>	<p>地区外に通じる道路が改良されアクセスが良くなった</p> <p>生活用品の移動販売車が来ることで買物弱者の手助けとなっている</p>	<p>町外へのアクセスが良くなり、出てしまう</p> <p>町外へ出るための公共交通機関が減った(バス)</p> <p>サル、イノシシ、クマ、シカ</p>	<p>区画整理区域の宅地化(市街化)が進まない</p> <p>老人の行きやすいお店がない</p>		<p>当時は良かったが、街路樹の管理に手間がかかる</p>	<p>人口減少に伴い空き家が増加している</p> <p>宿泊施設(民宿、旅館)が減少している</p>
働く				<p>村田製作所が大きくなった</p>		<p>地元が越前焼をあまり利用していない</p>	<p>高速交通の中に入っていない</p>		<p>水仙耕作者が減少し、担い手不足となっている</p> <p>働ける企業が少ない</p>	
学ぶ	<p>小中学校へのスクールバスの運行範囲の拡大</p>		<p>織田にもホッケー競技がはじまった</p>		<p>各部活の維持(部員の確保)ができない</p> <p>子供の希望の部活ができない</p> <p>施設の規模と子供の数のミスマッチで修繕に苦労する</p>			<p>子供の数が減り、1学年1クラスになっている</p> <p>子供同士の交流が減る</p>		
遊ぶ				<p>いたるところに屋内運動施設ができた</p> <p>スキューバができる海</p> <p>釣り客やイカ・魚釣り体験、スキューバダイビング体験者が増えている</p>	<p>施設がない</p> <p>釣り客やイカ・魚釣り体験、スキューバダイビング体験者が増えている</p>	<p>商店街に駐車場が少ない</p> <p>バーベキューハウスがない(無料の)</p>	<p>パチンコ屋が消えた</p> <p>悠久ロマンの杜の利用率が低い</p>	<p>山が荒れてカブトムシが減った</p>	<p>海水浴場が少ない</p> <p>駐車場が少ない</p> <p>釣り具屋がない</p>	

『住み続けられる環境、地域を維持・継続していく環境づくり』に向けて

地区	伸ばすべきところ					改善すべきところ				
	全体	朝日	織田	宮崎	越前	全体	朝日	織田	宮崎	越前
住む					生活道路の改良 主要道路の融雪装置	全ての公共施設にWiFi 外国人誘客のためのサイン改修 主要駅までのコミュニティバスの延伸				利用率の低いグラウンドの用途変更 (駐車場(舗装)宅地化)
働く	道路にたよらない企業を誘致できないか サブカルチャーなど					企業誘致の環境整備 企業が立地しやすいように				
学ぶ	東京オリンピックや福井国体に向けたホッケーの振興					部活動の合併 小学校の合併含む見直し 歩いて安全に通える通学路				
遊ぶ	自然の中で遊ぶこと つり、マリンスポーツ、山ガール				町営釣り場の整備 釣り大会の開催		未利用地の駐車場整備			

『住み続けられる環境、地域を維持・継続していく環境づくり』に向けて

地区	よくなったところ					わるくなったところ					
	全体	朝日	織田	宮崎	越前	全体	朝日	織田	宮崎	越前	
住む	子育てしやすくなった 住む近くまでコミュニティバスが走っている CATV 整備により情報格差がなくなった 国道沿いに大型型店舗コンビニ 澄む 変わらない	道路整備 (県道別所朝日線) (国道 417 号) 道がよくなった (国道 365 号) アオキができた	病院がきれいになった 病院が大きくなった 子育て安心感		道路(主要)が広がった 道路が広がった	中心地に空地がめだつ 人が減った 年寄りが幅をきかせて、若者が意見をいにくくなった		生活費(水道、電気)が高くなった 人が減った 年寄り高齢化率がアップした			3階建て住宅が増え、日当たりが悪い場所が多くなった 道がまったく広くならない 空き家が多くなった
働く	福井市、鯖江市、越前市に通勤時間短縮 障がいをもっている人が社会で働けるようになった				除雪等が強化され、冬季の通勤が快適になった	大型の工場が減っている(朝日、織田)		工場の撤退で就業場が減った 苦情が多くなった			
学ぶ						子供が減った 中学校の統合 中学校が遠くなった(朝日、糸生)					
遊ぶ	豊かな自然がたくさんある 観光など町内外へ向けてPRするネタは増えた				新鮮な魚がたくさん食べられる	昔とあまり変わってない(全体的) 体育施設が少ない 人の集まる施設が少ない 子供が外であまり遊ばなくなった にぎやかではなくなった 金を使わなくなった		商店街の店が減った 飲み屋が減った 劔神社に初詣に行っても周りに何も無い		漁港整備に伴い遊べる海岸が少なくなった 観光客が減った	

『住み続けられる環境、地域を維持・継続していく環境づくり』に向けて

地区	伸ばすべきところ					改善すべきところ				
	全体	朝日	織田	宮崎	越前	全体	朝日	織田	宮崎	越前
住む	<p>新しいエネルギーの活用</p> <p>子育て環境の強化 安心して楽しく子育てができる等</p> <p>空地の利用</p> <p>障がいをもっている人だけでなく、その家族が安心して暮らせるまちづくり</p>	<p>今後も道路整備を進めていく</p>				<p>地区ごとの目指すスタイルの明確化</p> <p>女性が住みたくなるまちづくり</p> <p>空き家対策 空き家を有効に使う (地域住民に対して)</p>				<p>住宅地区割り等の改善</p>
働く						<p>工場の誘致</p>		<p>人口が減っているので 大学や大企業の誘致</p> <p>織田病院の診療科を増やす (婦人科)</p>		
学ぶ						<p>ホッケーのアカデミー 専門学校の建設</p>	<p>有名大学へ入学できるような 高等教育の充実</p>			
遊ぶ	<p>CATV の活用 (PR 等)</p> <p>豊かな自然を生かした観光を PR する</p> <p>豊かな食材の活用 (浜の活井)</p> <p>観光ネタが増えたので PR を</p>				<p>豊かな資源や文化などを利用したブランド化を推進する</p> <p>越前の魚を町内で食べられるようなくみ</p> <p>新鮮な魚を東京などの有名レストランで調理してもらう</p>	<p>丹生高校生との意見の活用</p> <p>観光 PR のやり方を工夫する</p> <p>一年を通して町ににぎわいをもたせる</p>	<p>お洒落な商店街 レストランや甘味</p>	<p>神社と商店街の一体化</p> <p>劔神社の周りの整備</p>	<p>手頃な価格の越前焼き</p>	<p>観光に海を PR する</p>

6. 先進地視察

【高浜町（福井県）】

日 時：平成 26 年 11 月 29 日（土）

視 察 先：福井県高浜町 市街地周辺

目 的： 都市計画マスタープランの策定に際し、地区別住民ワークショップの参加者に、都市計画マスタープランの策定を通して都市計画を実践している先進地の状況を視察して頂き、計画策定の意義や計画に基づくまちづくりについて見識を広めて頂くことを目的に実施しました。

内 容： 高浜町職員の方による「高浜町都市計画マスタープラン」の概要に関する研修を受けた後、下記の町内 6 箇所の現地を視察しました。

- ①城山公園
- ②伝統的民家群保存活用推進地区
- ③シンボルロード
- ④新庁舎周辺道路
- ⑤雨水調整池
- ⑥中央球場より町並み展望

意見交換の概要

○都市計画マスタープラン策定の動機、目的は何か。

⇒まちづくりを進めるに当たって、都市計画に関する町の方針の必要性があった。また、法定計画であることから県都市計画課からも策定するよう指導があった。

○住民意見の反映や計画の周知はどのように対応したのか。

⇒計画策定段階では、20 名の策定委員会に各種団体から 7 名、町議会から 4 名、公募 4 名が参加した。計画の周知としては、説明会、パブリックコメントを実施した。

○人口減少が進行する上で市街地を維持していくために、他からの転居を考えているのか、人の移動として考えているのか。

⇒明確に定義していない。高浜町では、市街地郊外に住宅団地を造成したことで若い層が流出し、中心市街地の高齢化が進んでいる。中心市街地の居住環境の改善や町並み、景観に配慮することで若い層の人口定着を図っている。

○中心市街地において、賑わいづくり、働く場の創出とあるが、新たな産業の誘致を考えているのか。

⇒既存の産業を基本に、城山荘の活用や漁港の再整備に伴い賑わいづくりを進めている。

○若い層の定着には働く場が重要だが、それ以外の対策はあるのか。

⇒若い層の定着には子育てがしやすい環境が重要と考え、まちなかでの公園の整備など子育て環境づくりを進めている。



■研修状況（城山荘にて）

【富山市（富山県）】

日 時：平成 28 年 7 月 29 日（金）

視 察 先：富山県富山市 富山駅周辺

目 的： 本町における都市計画マスタープラン、立地適正化計画の策定に際して、都市計画基本方針等策定委員会の委員を対象に、コンパクトなまちづくりを実践している先進地として富山市の状況を視察し、まちづくりに関する見識を広めるとともに、計画策定のヒントになることを目的に実施した。

内 容： 富山市職員による富山市のまちづくりに関する研修を受けた後、下記の市内視察を行った。

- ①オーバードホール 公共交通インフォメーションセンター（ジオラマ見学）
- ②市内電車（セントラム）乗車
- ③総曲輪商店街
- ④多目的広場「グランドプラザ」
- ⑤富山市ガラス美術館、市立図書館



■富山駅ジオラマ



■セントラム



■グランドプラザ（外観）



■総曲輪商店街

意見交換の概要

○富山駅周辺は、どのように整備したのか

⇒20年くらい前に都市計画で都市未来推進地区として位置づけ、整備を推進してきた。

○串と団子の考え方について、中心市街地から距離のある大沢野のような郊外部の拠点地区では、まちづくりに関して自主的活動ができる権限譲渡はあるのか。また、細入のような市街地から遠方にある場所では、市街地から遠いためにサービスが低下すると考えられるが、遠隔地の拠点ではどのような施策が行われているのか。

⇒行政の機構としては、本庁舎とは別に、旧町村の役場に支所があったが、徐々に廃止している。現在、支所があるところでも、特別の権限がある訳ではない。

周辺部のまちづくりについては課題があり、“切り捨て”ではないかという声もあるが、生活するうえで最低限のサービスを維持することとしている。また、生活の足としての公共交通も最低限残すこととしている。

○この計画によって、周辺部の人口はどのように推移しているのか。

⇒市全体でも人口減少しており、周辺部でも減少している。縮小していく方向は変わらないと思うが、どのように縮小するかが問題と考えている。一律の減少は効率的ではないので、拠点を基本として縮小させるのが富山市の考え方となっている。

○市中心部と郊外の拠点との交通アクセスの点で、距離と所要時間はどの程度か。

⇒距離と時間については、大沢野まで概ね30分程度である。

○人口を集約する点で、住民への説明はどのようにしているのか。

⇒居住推進の点では、補助金による誘導が効果的となっている。また、住民サービスの点では、市街地では小学校や図書館など新しい施設があり、公共交通が整備されているので、高齢になっても安心して生活ができる。病院や介護サービスも受けられる。また、子供が急に病気になったときに親の代わりに迎えに行ってくれるシステムを今つくっている。どこに住んで頂いてもよいが、選択できる余地をつくっている。人口の6割は、郊外に住んでいる。

○富山市では、3つの基本的な施策(①公共交通の活性化、②公共交通沿線地区への居住推進、③中心市街地の活性化)があり、なぜ中心市街地なのか、多核心でなくてコンパクトといえるのかという疑問がある。地域の特性を活かした多核心的なまちづくりを考えているのではないか。

⇒今のところ、そのような話は聞いていない。しかしながら、地域の個性を活かしたクラスター的な都市構造は目指すべきところだと思う。その意味でも、4割を目指していると思う。現在、立地適正化計画の検討として地域別に不足する都市機能等を調査している。それに基づいて今後どのように展開していくかが課題である。